

# 自由な自己の道を 歩いて行こう

伊藤野枝・大杉栄ら  
没後一〇〇年記念シンポジウム

2023.9.24日

12:30開場 13:00開始 17:30終了予定

【会場】 アットワUNDER本店3階

東京都千代田区神田神保町2-5-4 関証社ビル3階  
地下鉄神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)のA1出口を出て右手にまっすぐ30秒  
電話&FAX: 03-3238-7415 | E-mail: wonder@atwonder.co.jp

Ito Noe  
1889.1.27-1923.9.16

Osugi Sakae  
1889.1.17-1923.9.16

講演 森まゆみ (作家)  
『『青鞨』時代の伊藤野枝』  
鎌田慧 (ルポライター)  
『大杉栄—自由への疾走』

コメント 加藤陽子 (東京大学教授)  
岡野幸江 (人間総合科学大学講師)  
梅森直之 (早稲田大学教授)  
フリートーク 登壇者全員  
司会 田中ひかる (明治大学教授)

参加費 一般¥2,000、学生¥1,500  
支払い方法(事前予約制)は、電話(アットワ  
ンダー): 0120-154-727またはEメール:  
nonoe20230924@gmail.comまでご連絡  
ください。支払いの年層をお伝えします。

配信 オンライン配信視聴  
チケット(¥1,800)  
の販売はこちらから



協力 岩波書店、読書人

主催 伊藤野枝・大杉栄らの没後100年記念イベント実行委員会  
代表: 田中ひかる (明治大学)、藤木実 (神田神保町 アットワ  
ンダー)、清水あつし (神田駿河台 シェイクスピア・ギャラリー)  
顧問: 川口寛彦 会計: 小澤雅博

当日のスケジュールは変更の可能性がございます。最新情報はTwitter、Facebook、  
ブログでチェックしてください。

# 自由な自己の道を歩いて行こう

## 伊藤野枝・大杉栄ら 没後100年記念 シンポジウム



第84号「帝都大震災後社会主義の巨匠大杉栄外二名を  
敬慕した労働改革家大野の会刊」(1923年10月号)

日 時：2023年9月24日(日)12:30 開場 13:00 開始 17:30 終了予定

講 演：森まゆみ(作家)「『青軌』時代の伊藤野枝」13:10～14:10

鎌 田 慧(ルポライター)「大杉栄 自由への軌走」14:10～15:10

コメン：加藤陽子(東京大学教授)15:30～15:50

岡野幸江(人間総合科学大学講師)15:50～16:10

梅森直之(早稲田大学教授)16:10～16:30

フットーク：登壇者全員 16:40～17:20

司 会：田中ひかる(明治大学教授)

協力 岩波書店、読書人

登壇者略歴

### 森まゆみ

作家・編集者。著書に『『青軌』の冒険』(東葉社文庫)など多数。編著に『伊藤野枝集』(岩波文庫)、別冊刊『聞き書き・関東大震災』(集思舎刊)。

### 鎌田慧

ルポライター。著書に画期的な大杉栄論となった『大杉栄—自由への軌走』(岩波現代文庫)、他著書に『自動車絶望工場』(講談社文庫)など多数。

### 加藤陽子

東京大学大学院教授。日本近現代史。著書に『それでも、日本人は『戦争』を選んだ』(新潮文庫)など多数。NHKエッセイ「100分 de フォトヒストリー」で伊藤野枝を論じた。

### 岡野幸江

日本近代文学研究者。人間総合科学大学講師。著書に『女たちの記憶』(双文社)、『平塚たい子』(青柳堂)など、『定本伊藤野枝全集』全4巻(学藝書林)の編集に関わる。

### 梅森直之

早稲田大学政治経済学術院教授。日本政治思想史。大杉栄に関する論文を多数執筆。著書に『初期社会主義の地形学—大杉栄とその時代』(有志舎)など。他に幸徳秋水『死生先生他八篇』(岩波文庫)の校注がある。

### 田中ひかる(司会)

明治大学法学部教授。社会思想史・アナキズム史。編著に『アナキズムを説く—自由を生きるためのブックガイド』(皓星社)など。

地元で愛され60年・信頼と実績の

## 株式会社 土谷不動産

千葉県知事(13)第3255号



お出しの出来る物件  
あります！  
ご相談ください

### 代表取締役土谷幸司

〒272-0021

千葉県市川市本郷2-14-14 土谷ビル1F

TEL: 047-334-4324

FAX: 047-334-4394

www.modrigal.co.jp

## 新店舗アットワンダーJG 開店！



見るだけで楽しい20坪の大型店舗  
失われていく記憶と想いを愛するすべての人に

エリア：船橋・芝山・若戸・船橋・芝山・芝山/メトロ・サブカルチャー  
アニメ・ゲーム・アメコミ/古着・雑貨・スポーツ・ホビー・雑貨物



アットワンダー本店も通常営業  
書物 家庭 雑貨等の買入れ、整理、片付けの  
ご相談はお気軽に！ wonder@wonder-jg.jp  
アットワンダー 0120-134-757 直上：鈴木直

ブックカフェ二十世紀(本店)にも  
ぜひお立ち寄りください。  
イベント等詳細はホームページへ



1923年8月31日～9月5日「大震災・大杉栄と仲間たち展」開催。  
70周年記念として、新館地区ギャラリーにて開催された展覧会だ。  
1922年伊豆箱根峠で遭難死した、新政府主義者・久坂栄之助の遺筆となった油彩画等の貴重な作品が展示された。図録も既に販売中である。

# 没後 100 年記念イベント(関連企画)



## 「大杉栄の歩いた 巴里と仏蘭西」

日本人画家の滞欧作で巡る「展

10月4日(水)～10月28日(土) 美術展②

大杉栄はフランス滞欧の様相を『日本脱出記』に記し、また林俊衛は後に「改造」誌に「仏蘭西監獄及法廷の大杉栄」を著述しています。大杉はパリだけでなく、ロシア貴婦人と会ったマルセイユ、中国人活動家と過ごしたりリヨン等に滞在してますが、日本人滞欧画家の作品で1920年代の仏蘭西をしのびます。

開催時間 13時～18時  
(但し毎週日曜から火曜は休み)  
会場「シェイクスピア・ギャラリー」  
千代田区神田駿河台  
1-5-6-001



新画展  
「リュ・クルール」  
(1928年)

パリに着いた晩、夕飯を  
食いに、宿からそとへ  
出て見て驚いた。  
その辺はまるで浅草なのだ。  
しかも日本の浅草よりも、もっと  
もっと下劣な浅草なのだ。  
貧民窟で、淫売窟で、  
そしてドンチャンドンチャンの  
見世物窟だ。

(大杉栄、日本脱出記、一九二三年より)

8月29日(火)～9月15日(金) 美術展①

大杉栄とフランスで共に過ごした林俊衛は帰国後、1945年に亡くなるまで画作を続けますが、彼と姉の林聖子を多くの画家が援けています。それらの手紙も含めて展示します。  
開催時間 13時から18時(但し毎週日曜・月曜は休み)

講演会「自由を愛し自由を生きた画家・林俊衛とその周辺」  
講師・後藤洋明氏(「風紋」同人)  
9月2日(土)17時より  
懇親会込み・会費2000円  
申し込み 090-8580-3160

会場「シェイクスピア・ギャラリー」  
千代田区神田駿河台1-5-6-001

## 「林俊衛と彼を援けた画家たち」展



林俊衛  
「小みち(エックスにて)」  
(1926年)滞欧作品



Shakespeare Gallery  
1-2-1 千代田区神田駿河台1-2-1

〒100-0001 東京都千代田区神田駿河台1-2-1 電話03-607-0021  
TEL 03-6072-0030 FAX 03-6072-0021

9月19日(火)～9月22日(金)

磯村厚とその娘で女性運動の初期からの強い手塚真柄、真柄と結婚した近藤憲二は大杉栄と労働運動社を支援していて、大杉没後はその遺児を守り、運動の記録を残した。真柄、憲二の娘近藤千流の死には判厚、栄、憲二などが残した膨大な写真資料があった。当時の活動家、思想家、文化人などの交流が判るものである。厳選した百点ほどをパネルとして展示公開するものである。

開催時間 10時から17時  
但し、9月19日(火)は12時より開室。  
9月22日(金)は15時まで  
場所 東京古書会館2階展示ホール  
千代田区神田小川町3丁目22  
協力 アナキズム文献センター

## 「大杉栄と仲間たち」展示

### ① 関東大震災と朝鮮人・中国人差別

講師：藤野裕子(早稲田大学教授)＝予定  
※日時・場所未定  
主催者：差別・排外主義に反対する連絡会など

### ② 労働争議と弾圧の推移と現在

主催者：東京中部地域労働組合  
今後 WEB などでも発表します。

各種講演会  
勉強会など

大杉栄の全容を余すところなく網羅した  
完全版全集

「大杉栄全集」全12巻・別巻1

第1巻～第7巻 定価6800円＋税  
第8巻～第12巻・別巻 定価8000円＋税

ばる出版 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-9-16  
電話 03(3353)2835 FAX 03(3353)2826

## 「アナキズムを読む」 田中ひかる 著

(自由)を生かすためのブックガイド  
国家や資本主義、社会の階級や差別、そして  
身分や人種差別や差別、あらゆる抑圧や  
かたがたの抑圧や差別を打ち破るために、個人は  
どう生きるべきか。その問いを、自分自身で  
考えたい、学びたい、実践したい、という  
人々のために、本書は、国家や資本主義、  
社会の階級や差別、身分や人種差別、  
あらゆる抑圧や差別を打ち破るために、  
個人は、どう生きるべきか。その問いを、  
自分自身で考えたい、学びたい、実践  
したい、という人々のために、本書は、

ANARCHISM  
ANARCHISM



400頁定価 1800円＋税  
定価2000円＋税  
ISBN978-4-7744-0764-4

絶版

伊藤野枝・大杉栄ら  
没後100年記念シンポジウム  
開催にあたり

「関東大震災から100年」と2023年メディアは大騒ぎしそうですが、その震災後の混乱に乗じて生じた伊藤野枝・大杉栄・橋本一、平沢計七ら労働運動家、そして多くの朝鮮人、中国人の虐殺を振り返る声をどれだけ耳にするでしょうか。

災害の中心にあった東京の神田神保町で、史実を検討し、あらためて次の100年に生かしていくシンポジウム、そして各種イベントを実施する事になりました。

イベント全体のタイトルの先頭に伊藤野枝を掲げたのは、いま、彼女に対する関心が高まっていることが、神保町界隈で実感できるからです。大杉栄も、生前から出版文化に大いに貢献した人物です。

女性解放(フェミニズム)、反差別主義、平和と戦争、人間の自由な生き方など、また改めて彼らの思想や行動が、現代に多くを問いかけていることを参加者の皆さんと考えたいと思います。

シンポジウムでは、いま関心が高まっている伊藤野枝に焦点を当て、「自由な自己の道を歩いて行く女」(『伊藤野枝集』岩波文庫17ページ)という彼女の言葉を掲げ、そして大杉栄の思想や行動、そして彼女らの「生き方」の現代的意味を考えます。

展示会では、伊藤野枝や大杉栄たちの著作などから、100年前の彼らの息吹を感じることができよう。それ以外にも、100年記念にちなんだイベントを開催し、情報を発信し、交流の場を提供いたします。

2023年8月

実行委員会

次の世代に文化をつくる神田神保町の書籍・大学関係者と市民が中心となり、これを企画しました。

実行委員会より一言

野枝「新しい女の道」

100年後に生きていく私を見て、野枝は何というかな? 私たちも各自各自の道を歩いているけど、まだまだ私だけではいぬから。

ひとつだけ野枝に見えることは、「新しい女は今のまでの女の歩み古した足跡を何特までもまがして歩いては行かない。新しい女には新しい女の道がある。新しい女は多くの人々の歩まなかった道よりさらに進んで新しい道を先導者として行く。」(『伊藤野枝「新しい女の道」(野枝)1913年10月 森まゆみ編伊藤野枝集(新定文庫)』)

進んで新しい女たちは今の道の下でんげってますよ。(山田平洋)

イデオロギーで人を殺める

大杉栄伊藤野枝虐殺は歴史事実として知り、佐野清一「野郎正義 乱心の擲筆」は興味深く読んでおりました。1923年が母の生年ということもあって、関東大震災を念めて、私に、より迫るものとしてあったのです。そして私が、大杉栄伊藤野枝虐殺で考えさせられるのは、それが暴兵による徹底的な行為であることです。所謂ゲバにも同じようなことを見て取ります。何故、イデオロギーが徹底的に人を殺めるに繋がるのか。このような問題意識をもって、このプロジェクトに関わりました。(小澤寛樹)

行動力、知力に圧倒されて

神山由緒の小説「萬葉あらしよ」を読みながら、「野枝このままで終わらん、絶対に・・・」(本文より引用)とひたすら突き進む伊藤野枝に対して、100年以上前に生きた女性であるということが信じられないほどの行動力、知力に圧倒されます。まだまだ女性が生きづらく制度、慣習が多いこの日本で、あんなはこんな野枝の中で良いの? 行動することが大事と日々私も彼らから叱咤激励されているようです。(深野孝洋)

6歳の少年が殺された事実

伊藤野枝・大杉栄と一緒に6歳の橋本一少年が殺された事実を忘れてはならないと思う。これこそが、無数の朝鮮人と中国人、労働運動家たちを虐殺した暴・警察・民衆が構成していた当時の日本社会の残忍性を象徴する事実だと思うからだ。今後何に同じことは言うがたまたま再演されるかもしれない。それを阻止するための一つの方法は、当時であって自由を求めた伊藤野枝・大杉栄の「生」を想起し続けることだと思う。(野中ひかる)



辻とこと 油彩画「地平」(飯塚堂・提供)

辻とこと(1913-75)は、辻潤と伊藤野枝の間に生れた長男で、戦後山岳やスキーの絵でも知られた画家・詩人である。

文学者で感受性の強い芸術家

近代洋書の漢訳作を多く取上げてきたが、大杉とフランスにて共に行動した林徳雄、それに青山善雄、小山久三との交友が知られている。大杉が虐殺されたという報を動物の地で聞いて、彼ら画家も悲痛に陥れて彼らの死を覚悟した、と言われる。画家も文学者も、皆本質的にアナキストなのだ。私にとっての大杉とは、多くの芸術に通じ、かつ幅広い視野を持った文学者であり、感受性の強い芸術家だ。望月桂、柳屋正夢といったプロレタリア系も、2人の存在は文学や芸術に与える影響は、大きな希望を与えたのだろう。(清水あつし)

現在の学問で何が語りうるのか

読まかの事件で企圖に巻かれているが、門外漢である。教科書に書かれた範囲での知識しか持ち合わせていなかったが、別に多量事件の一つではあった。アナキズム、アナルコ・サマツカリスムとは何か、なぜ伊藤・大杉は被害者ならなければならないのか、暴力は何か、今後起こった事件が起こる可能性は確力の。100年を経た今、現在の歴史学、社会学等では何が語り得るのか、読者の報告には興味がある。(SU 記)

東京銀座総合法律事務所  
弁護士 辻 恵

10.8 山崎博昭プロジェクト事務局長

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-6 銀座 ME ビル3階

電話 03-3573-773(代表) FAX 03-3573-7189

http://www.tgs-law.com/



1972年9月16日  
「私が初めて参加し、実行委員でもあった山手教会の集会は経典員といていい状況で、三人以上の委員会があったように記憶している。」(山口秀彦)

1963年9月18日  
全電通会館で開かれた講演会。  
「驚い起すと、七〇年頃に会社で私が出つた先輩たちに、大杉や野枝を虐殺員知った人が何人もいた。」(山口秀彦)

